

黒毛和種素牛の飼養管理改善 ～素牛市場評価向上に向けた飼養管理を改善（改善農業者戸数0戸→2戸）～

（課題番号 9）

- ◆活動年次：令和4年度
- ◆対象：浦河町富里地区 黒毛和種繁殖経営（6戸）

1 課題の背景 ～R3年 体格調査と課題の整理～

R3年は課題整理のため体格調査を実施した。これらにより子牛発育パターンは主に3つあると推察できた。各農業者の共通課題はほ乳から離乳期における発育改善であると考えられた。



写真1 胸囲を測定し体重を推定

- ♠去勢牛（8～9カ月齢）
胸囲：160cm以上＝体重 300kg
腹囲：190cm以上
体高：115cm以上
- ♥雌牛（9～10カ月齢）
胸囲：158cm以上＝体重 280kg
腹囲：190cm以上
体高：110cm以上

市場出荷目標となる体格

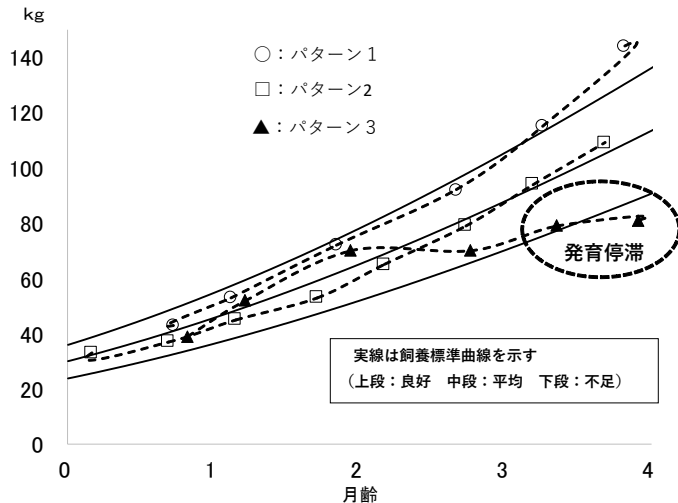


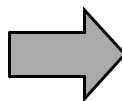
図1 ほ乳から離乳期までの子牛の体重（農家C冬期調査から雌子牛3頭抜粋）

- パターン1
・ストレス無く、順調に発育
- パターン2
・軽度なストレスによる一時的な発育停滞
- ▲パターン3
・ストレスの長期化による慢性的発育停滞

この時期に発育停滞した牛は、その後回復するのは難しい！（農業者C）

<発育停滞要因>

- 下痢症（出生後7～10日まで）
- エネルギー不足
（出生30日齢～50日齢）
- 飼料切り替え（離乳時期）



<ほ乳から離乳期までの課題>

- 初乳の確実な給与
- 個体管理～群管理への環境改善
- ほ乳量、固形飼料の摂取量向上
- 離乳時に摂取量を落とさせない給与の実施

2 活動の経過 ～R4年 哺乳から離乳期までの管理改善～

哺乳から離乳期までの基礎管理について対象農業者の理解が深まるよう情報提供を行った。農業者は出生後の子牛が初乳を飲んでいるか注意しており、親牛が飲ませない場合は初乳製剤を使用している。

○活動内容

- 子牛への初乳給与方法を調査
- 分娩施設環境整備の優良事例紹介
(パドック泥濘化予防のための石炭灰利用事例)
- 初乳を採取し免疫抗体を評価
(畜産部会調査研究 2戸実施)
- 体格調査の実施



写真2 初乳製剤は器具を使って飲ませる



写真3 ほ乳から離乳期までの管理を確認



写真4 現地で測定結果と発育標準値を比較

3 活動の成果

これらの活動により農業者と課題を整理し、今後の活動について共有することができた。

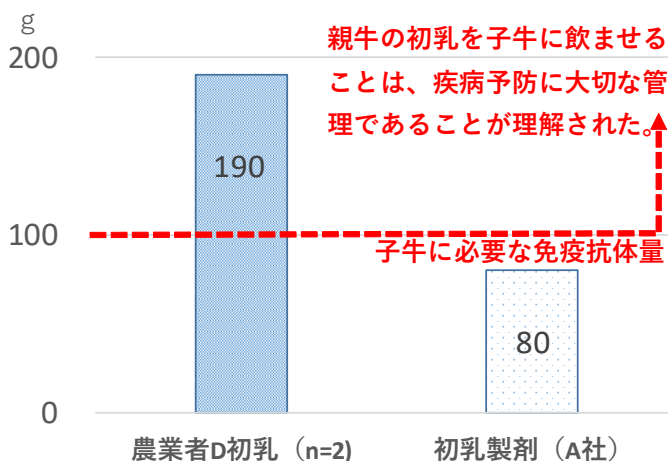


図2 初乳を1ℓ飲ませて得られる免疫抗体量

○農業者は子牛に初乳を飲ませるために、様々な工夫をしていることがわかった

○親牛の初乳を子牛に飲ませることは、疾病予防のための大切な管理であることが再認識された

4 今後の対応

- 子牛の下痢発生について数値化し、改善効果をまとめる
- 個体管理から群管理への環境改善について各農業者の施設管理状況に合わせて支援する
- 各農業者のほ乳量、固形飼料給与内容を改善し、離乳期における発育改善を目指す